



このマークのある展覧会では新潟県出身作家の作品を見ることができます。

2012年よりスタートした美術館のネットワーク「NIIGATAアートリンク」。県立と市立の美術館4館が手を取り合って活性化。館を超えた取り組みを通して美術館めぐりがもっと楽しくなるヒントを提案していきます。



新潟市美術館

新潟市

戦後80年 戦争と子どもたち (NIIGATA)
4月11日(土)~5月31日(日)

戦中から終戦直後に描かれた子どもの姿、子どものための絵本や紙芝居、子どもたち自身が描いた作品など約130点。戦時期に「子ども」像が担った意味、時代・社会・美術の抜き差しならぬ関係を検証します。



青柳喜兵衛(天翔ける神々) 1937年 北九州市立美術館蔵

竹久夢二のすべて
画家は詩人でデザイナー

6月13日(土)~8月30日(日)

京都・嵐山にある福田美術館の貴重なコレクションから、美人画の数々に加え、雑誌の挿絵、楽譜の表紙デザイン、本の装丁にいたるまで、「クリエイター」としての魅力が詰まった作品を展覧します。



竹久夢二(セオ案譜No.44「蘭燈」) 1921年 福田美術館蔵(日河村コレクション)

画家のパレット (NIIGATA)

10月3日(土)~2027年1月11日(月・祝)

ピカソ、マティス、ダリといった海外作家や梅原龍三郎、林武などの日本近代洋画の巨匠らによるパレットと作品を合わせて紹介。パレットの中には、画家が得意としたモチーフが描かれたものもあります。画家の遊び心にも触れながらお楽しみください。



モーリス・コトリロ(パレット) 1933年頃 笠間日動美術館蔵

当世越後三崎人 (NIIGATA)

2027年1月23日(土)~3月22日(月・祝)

「崎人」(きじん)とは「俗世に距離を置き、自娛の境地に遊ぶ賢者」という意味。越後の風土のなかに独自の小宇宙を築いてきた3人、美術家・上原木呂、写真家・倉茂義隆、カストリ雑誌収集家・西瀧浩平による3つの個展。

新潟市新津美術館

新潟市

おでかけ! 絵本ミュージアム

5月23日(土)~8月30日(日)

『からすのパンやさん』や『ぐるんぼのようちえん』など、世代を超えて愛される絵本の世界を体験できる展覧会。小さな子どもたちにもなじみ深い「絵本」と「おでかけ」がテーマの本展は、ミュージアムデビューにもぴったりです。



『からすのパンやさん』 偕成社 1973年 ©Kako Research Institute Ltd.1973

田中達也展
みたてのくみたて

9月18日(金)~11月8日(日)

日常にあるものを別の物に見立てたアート作品を制作して人気を博す田中達也(1981~)。新作で構成された本展では、「田中達也のアイデアは、どこからやってくるのか?」、その謎を写真と立体あわせて約160点の作品から解き明かします。



なんでも現代美術館©Tatsuya Tanaka

新津美術館の「舞台裏」 (NIIGATA)

2027年1月23日(土)~3月7日(日)

作品を集めて、守って、調べて、展示やイベントを通じて魅力を発信する。美術館の機能を深掘りしつつ、所蔵する逸品の知られざる一面をご紹介します。出品作家など(予定):三浦小平二、笹岡一、中野嘉之、倉俣史郎、絵本原画、雑誌『雪と生活』、展示備品



佐々木家堂(金銅海鷲香炉) 1935年頃 新潟市新津美術館蔵

新潟県立万代島美術館

新潟市

大カプコン展
一世界を魅了するゲームクリエイション

3月14日(土)~6月21日(日)

世界的ゲームソフトメーカー カプコンは『バイオハザード』シリーズなど、数多くの人気タイトルを開発し、世界の人々を魅了してきました。本展では、開発者たちの企画書や原画、ポスター、体験型コンテンツ、最新技術などを通して、日本が誇るゲーム文化を捉え直します。



©CAPCOM

鹿島茂コレクション
花開くパリ・モダン

7月11日(土)~9月6日(日)

フランス文学者、鹿島茂氏が40年以上にわたり収集を続ける膨大な西洋古書コレクションを新潟で初めて公開する展覧会です。20世紀前半のフランスで開花した新しい時代の感覚―「モダン」の様相を、鹿島茂コレクションならではの視点でご紹介します。

大どろぼうの家 (NIIGATA)

9月19日(土)~12月20日(日)

有名な大どろぼうが最後の盗みに出かけました。留守になった大どろぼうの家の中には、豪華なお宝や偏愛コレクション、そして宇宙までが飾られているようです。本展は、8つの部屋をまわりながら、大どろぼうの秘密に迫る体験型の展覧会です。



© Maiko Dake

鈴木のりたけ「大ピンチ展!」

2027年3月6日(土)~5月30日(日) (予定)

子どもが生活の中で遭遇するさまざまなピンチを描いた、シリーズ累計270万部突破のミリオンセラー絵本『大ピンチずかん』(小学館)。本展は、著者の鈴木のりたけさんが自ら考案した「ピンチ・エンターテインメント」で、楽しさが広がる体験型の展覧会です。



© 鈴木のりたけ/小学館

新潟県立近代美術館

長岡市

描く人、安彦良和

3月7日(土)~5月24日(日)

『機動戦士ガンダム』のキャラクターデザイナー兼アニメーションディレクターをつとめ、現在は漫画家としても活躍する安彦良和(1947~)の回顧展。デビュー当初から最新作の漫画作品まで、800点を超える貴重な作品、資料によって約50年の軌跡を紹介します。



『機動戦士ガンダム』(劇場版)宣伝ポスター用イラスト原画 1981年 ©創通・サンライズ

西洋絵画400年の旅
一珠玉の東京富士美術館コレクション

6月27日(土)~8月23日(日)

国内外の幅広い時代の作品を収蔵する東京富士美術館。中でも西洋絵画コレクションは、ルネサンスから近現代美術までを網羅した、国内屈指の充実度を誇っています。本展覧会では、同館コレクションから厳選された80点あまりの油彩画を通して、西洋絵画400年の歴史を旅します。



クロード・モネ(睡蓮) 1908年 東京富士美術館蔵 ©東京富士美術館イメージ・カブ/DNPartcom

きもののヒミツ
友禅のうまれるところ

9月12日(土)~11月15日(日)

直線縫いで仕立てられるきものは、平面性を持ちながらも、身にまとうことで立体としての美しさを生み出します。そのため制作の現場では、下図や図案を衣服として成立させるための試行錯誤が重ねられてきました。本展では友禅の老舗・千鶴のコレクションを中心に、意匠と制作の両面から「きものヒミツ」に迫ります。



(小袖 納戸繪子地近江八景模倣) 江戸時代中期(18世紀中期) 株式会社千鶴ホールディングス蔵

松岡達英の科学絵本 生命のすがた
一こどもたち、大人たちへ

2027年3月6日(土)~5月16日(日) (予定)

幼児絵本『びよーん』でおなじみの絵本作家 長岡市出身の松岡達英(1944~)は、自然をテーマに数多くの科学絵本を発表しています。幅広い画風や技法を駆使しながらも、描き出されるのは一貫して人間を含む自然の生命の姿です。すぐれた観察眼と卓越した画力による原画をお楽しみください。



各界マニアのみなさまへ、展覧会や出品作品の熱狂ポイントをご紹介。それでもなかった方も、この機会にマニアになってしまいませんか…？

新潟市 美術館 竹久夢二のすべて 画家は詩人でデザイナー

6月13日(土)~8月30日(日)



「夢二式美人」と呼ばれる美人画で一世を風靡し、大正ロマンを代表する画家となった竹久夢二。本展では、美人画だけでなく少女雑誌の原画、千代紙、封筒



や便箋、装幀本など、デザインワークにも注目。現代の私たちも心ときめく「カワイイ」夢二の世界を紹介します。《初春》は、国内外の最先端ファッションやニュースを紹介した雑誌『婦人グラフ』1926年1月号の表紙原画。薬指に指輪をはめた若妻の着物や背景には新春にふさわしい梅の花をあしらっています。

竹久夢二《初春》
1926年 福田美術館蔵 (旧河村コレクション)

新潟市 新津美術館 新津美術館の「舞台裏」

2027年1月23日(土)~3月7日(日)



本展は美術館学芸員の日常業務における「情熱」と「限界」に迫る企画でもありません。会期中「仕事現場」を紹介するプログラムを開催予定。具体的には、収蔵庫前から展示室へ、作品の動線を迎えるバックヤードツアー。開館以来、展覧会出品作家8組が非公開エリアに残した「壁画」鑑賞ツアー(左図)。お仕事体験のワークショップなど。工場見学や旧跡巡りといった「社会科見学」好きにおすすめです。(詳細は美術館Webサイト等で随時発信します)



事務室前廊下の「壁画」(通常非公開)。
右から荒井良二氏、田中達也氏の描き込み。

新潟県立 近代美術館 きもののヒミツ 友禅のうまれるところ

9月12日(土)~11月15日(日)



きものは日本の伝統的な衣装であり、その多様なデザインも魅力のひとつです。平面である下図や図案が人の体を彩る立体となるために、デザインの上ではどのような工夫がされてきたのでしょうか。本展では、近世のきものや当時の流行を反映した雛形本、友禅染裂、絵画、工芸品、人間国宝のきもの等を通じて、これまでにない視点から、きもののデザインを紐解きます。きもの好きの方はもちろん、日本のデザインに興味のある方にもおすすめします。

《友禅染裂 節句飾り》
明治時代後期~大正時代(20世紀初期)
株式会社千總ホールディングス蔵

新潟県立 万代島美術館 鹿島茂コレクション 花開くパリ・モダン

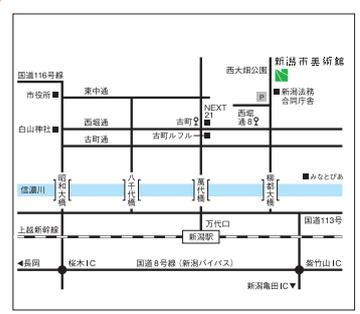
7月11日(土)~9月6日(日)



狂騒のパリで話題をさらったダンサーカップルを描いたポスターは、しなやかな体の動きに流れるようにまつわる衣装にも注目です。描いたのは、『ガゼット・デュ・ボントン』をはじめ、数々の雑誌でファッションプレートを手掛けていたイラストレーター、ジョルジュ・バルビエ。本展では、彼のほかにも鹿島茂コレクションが注目してきたアール・デコの挿絵画家たちが、誌上に開花させていったモダンなモードをご覧ください。

ジョルジュ・バルビエ
《クロティルド&アレクサンドル・サカロフ》
1921年 ©鹿島直(NOEMA Inc.)

各館で授乳室、おむつ交換台等の設置、ベビーカーの貸出を行っています。詳しくはお問い合わせください。



新潟市美術館
Niigata City Art Museum
9:30~17:00(観覧券の販売は16:30まで)
〒951-8556 新潟市中央区西大畑町5191-9
TEL 025-223-1622
<https://www.ncam.jp/>



新潟市新津美術館
10:00~17:00(観覧券の販売は16:30まで)
〒956-0846 新潟市秋葉区蒲ヶ沢109番地1
(花と遺跡のふるさと公園内、県立植物園となり)
TEL 0250-25-1300
<https://www.city.niigata.lg.jp/nam/>



新潟県立万代島美術館
The Niigata Bandaijima Art Museum
10:00~18:00(観覧券の販売は17:30まで)
〒950-0078 新潟市中央区万代島5-1
(朱鷺メッセ内万代島ビル5F)
TEL 025-290-6655
<https://banbi.pref.niigata.lg.jp/>



新潟県立近代美術館
THE NIIGATA PREFECTURAL MUSEUM OF MODERN ART
9:00~17:00(観覧券の販売は16:30まで)
〒940-2083 長岡市千秋3丁目278-14
TEL 0258-28-4111
<https://kinbi.pref.niigata.lg.jp/>

